

# 愛知県豊明市農業委員会（地域計画の作成に向けて「地域農業の未来を考える会」を開催）

【農業委員会の体制】（令和5年7月20日任期開始 新制度移行後3期目）

農業委員会委員10名、農地利用最適化推進委員6名、事務局職員5名

## 1 地区の特徴・状況、課題

豊明市は、市街化調整区域内にある農地の約6割が水田であり、主な作物は水稲です。また、水田耕作の約6割を大規模農業法人が請け負っています。一方、畑については、果樹や少量多品種の野菜が生産されており、花苗生産も行われています。地域農業を支える農家の高齢化が進み、徐々に世代交代が始まる中、後継者のほとんどがサラリーマン世帯・共働き世帯であり、農業を引き継ぐことが困難な状況にあります。このような後継者不足の問題が耕作放棄地の増加にもつながっているため、農業を担う者を見つけることが喫緊の課題となっています。

## 2 課題解決に向けた活動（取組と工夫）

農家向けに実施したアンケート結果を基に、耕作者の年齢や、後継者の有無を色で示した地図を作成し、それを使用しながら、ワークショップ方式の座談会を開催しました。市の農業委員会委員・農地利用最適化推進委員の方々が会の中心的な役割を担うことを想定し、まずはそれらの方々に対して座談会を行いました。その後、全5地区で行い、地区ごとの「現状・課題」「未来に向けた方針」そして「方針実現のための具体的な方法」をテーマに、地域の農業者の思いを集約して、地域計画のうち「将来の地域農業のあり方」を中心に検討を行いました。



座談会（地域農業の未来を考える会）の様子

## 3 活動の成果

愛知県農業会議が開催して下さった研修を再現する形で、実際に市の職員がファシリテーターとなり、会の進行を行いました。準備や演習に相当の時間や労力を費やすこととなりましたが、その分、地域のキーマン等が積極的に協力をしてくださり、特に大きな問題もなく全地区1回目の座談会を終えることができました。

集約したい農業者の思いを、上記のように3つのテーマに分け、順序立てて進めていったことで、各テーマごとの農業者の思いを細かく汲み取ることができ、自分たちでは気付けなかった農業者目線ならではのアイデアを発掘することもできました。